

研究主題「2年保育5歳児の製作活動を中心とした協同的な活動の指導の工夫 - 小学校教育への滑らかな接続を踏まえて -」

東京都教職員研修センター 研修部 授業力向上課
港区立青南幼稚園 教諭 小久保篤子

I 研究のねらい

中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」(平成17年1月)では、共通の目的・挑戦的な課題など、一つの目標を作り出し、協力工夫して解決していく活動を協同的な学びとして位置付け、その取組みを推奨していく必要性が挙げられている。私の今まで行っていた協同的な活動における課題は、幼稚園教育から小学校教育への接続において、発達や学びの連続性を踏まえた指導が十分ではないことである。

そこで、協同的な活動において、5歳児の幼児に育てたい指導の内容や方法について見直し、発達や学びの連続性に基づいた指導の継続を図ることが必要であると考えた。

幼稚園教育の中で、協同的な活動を意図的に進めることは、小学校以降の生活や学習において、一人一人が課題に向かい、自ら考え、自分の考えを表現し、友達の話聞き、相互理解する態度や、さらに学ぼうとする意欲を育てることにつながる。そして、幼稚園と小学校の教員が、それぞれの教育の特質を尊重して共有し、指導の内容や方法を改善することで、滑らかに小学校教育に移行できるのではないかと考えた。その一つの方法として、製作活動を中心とした協同的な活動(教師が提示した課題に向けての取組み)を通して、小学校教育への接続を踏まえた具体的な指導の工夫を明らかにすることをねらいとし、本研究主題を設定した。

II 研究の内容と方法

1 研究の仮説

上記のねらいを達成するために、仮説を立て検証することにした。

教師が小学校教育への接続を見通して、協同的な活動における取組みの過程に沿って幼児に育てたい内容を明確にし、継続的な指導を行うことにより、幼児の協同的な活動に取り組む関心や意欲を高めることができるだろう。

2 基礎研究

協同的な活動の定義は、「一人一人の幼児が思いや願いをもって主体的に活動しながら、集団や友達とかかわる中で互いの学びが響き合い、活動の質が高まっていくことが可能になる活動」とする。

3 調査研究

(1) 調査のねらい、対象、方法及び内容

幼稚園・保育所、小学校の互いの指導の内容や方法に対する意識を明らかにするために、都内公立幼稚園・保育所、小学校の5歳児学級担任、1年生学級担任を対象とし、質問紙による調査を12月に実施した。調査の内容は、幼稚園・保育所、小学校の指導の重点や指導の内容、5歳児における協同的な活動の実施状況等についてである。調査対象への配布数と回収状況については表1に示した。

表1 調査対象への配布数と回収状況

	配布数	回収数	回答数	回収率
幼稚園	51(園)	47(園)	106(人)	92.15(%)
保育所	15(園)	10(園)	20(人)	66.66(%)
小学校	65(校)	54(校)	194(人)	83.07(%)
計	131	111	320	80.62

(2) 調査結果の分析

図1は、小学校から見た幼稚園・保育所が指導の重点にしていると思うこと、幼稚園・保育所から見た小学校教員が指導の重点にしていると思うことを比較したものである。どちらも、上位に「ア 自分のことは自分です」「イ 話を聞く」が多く、一致している。図2では、小学校が幼稚園・保育所に期待する指導として「カ 落ち着いて話を聞く」「キ 基本的な生活習慣を身に付ける」が多い。図1と図2の結果から小学校は、幼稚園・保育所に、「話を聞く」「基本的な生活習慣を身に付ける」指導を期待していることが分かる。

図3では、製作活動を中心とした協同的な活動は、幼稚園・保育所で100%実施されていることから、指導として大切にしていることが分かる。図1で小学校教員から見た幼稚園・保育所が指導の重点にしていると思うことの中で、「オ 協同的な活動に取り組む」は13%である。図2では、小学校が幼稚園・保育所に期待することとして「サ 協同的な活動に取り組む」は6%である。小学校は、幼稚園・保育所が協同的な活動をしているとらえているが、指導への期待は下位である。幼稚園・保育所、小学校では、協同的な活動に対する意識に違いがあることが分かる。

(3) 考察

小学校教育への滑らかな接続を行うためには、幼稚園における協同的な活動の指導の内容や方法等を小学校に伝えて共通理解を図り、互いの意識の違いを改善する必要がある。

小学校が期待する「落ち着いて話を聞く」「葛藤や我慢の体験」等の指導を具現化できる活動は、協同的な活動として位置付けた活動であると考えられる。そして、協同的な活動の取組みは、どの幼稚園においても実施されていることから、取組みの内容や方法の質が問われていると言える。

4 実践研究

(1) 研究の方法

基礎研究及び調査研究の結果から、5歳児に育てたい内容の中で、特に協同的な活動における学びに着目し、育てたい内容の観点として以下にしぼった。

理解する 話す 聞く 仲間意識をもつ 葛藤する 試す・工夫する 情報を取り入れる

製作活動を中心とした協同的な活動を進めていくに当たり、その活動の流れを「製作活動を中心とした協同的な活動を進める過程」としてとらえ、4つのステップ「共通の目的をもつ」「話し合う」「作る」「遊ぶ」に分けた。

(2) 検証保育

検証保育のねらい、対象、時期

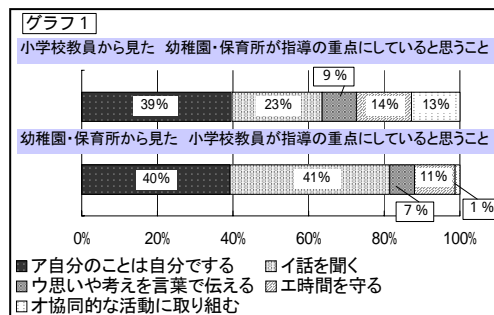


図1 幼稚園・保育所、小学校の指導の重点の比較

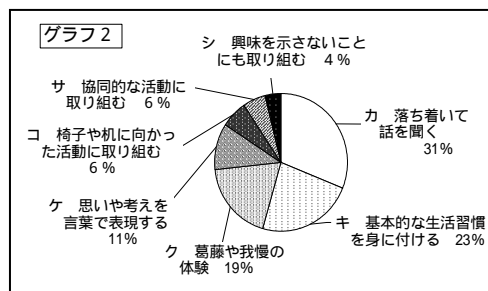


図2 小学校が幼稚園・保育所に期待すること

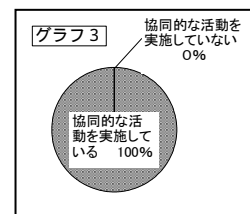


図3 幼稚園・保育所での製作活動を中心とした協同的な活動の実施状況

幼児の活動に対する関心や意欲が高まる教師の指導の工夫、幼児に育てたい内容を明確にするために、5歳児30名(1グループの人数5名)を対象に、「製作活動を中心とした協同的な活動を進める過程」を踏まえた指導案を作成し、検証保育(10日間)を実施した。

検証保育の分析

人形劇に使うものを友達と協力して作り上げていくグループ活動(題材:絵本「おまえうまそうだな」(絵作:宮西達也 ポプラ社)より引用)での幼児の取組みの様子を基に、関心や意欲の高まりを分析し、下表に示した。

過程	ねらい	幼児の姿と教師の指導	分析 下線部は関心・意欲
(共通の目的をもつ) ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> 目的があることを知る。 自分たちが子ども会で表現活動をするのが分かる。 教師の話落ち着いた聞いて聞く。 自分の思いや考えを話す。 	<p>教師は、幼児に対して【子ども会で自分たちが考えた劇や人形劇等の表現をする】という課題を提示する。幼児は黙って聞いている。幼児がすることにイメージがわくように例示するが、思い付かず黙っている。</p> <p>教師が、表現の題材についての先行経験を思い起こさせるように、具体物を使って話をすると、幼児は、自分たちがやりたい表現の題材を言い始める。</p>	<p>教師の提案に対し、幼児は、自分たちが子ども会で表現活動することを理解していなかった。教師が表現活動の題材を例示したことにより、<u>自分たちがすることが分かった。</u></p>
ステップ2(話し合う)	<ul style="list-style-type: none"> グループの中で、自分の考えや気持ちを言葉に表す。 友達の考えを聞いたり、受け止めたりする。 グループのみんなで一つの題材を決めようとする。 考えがまとまらない時には、気持ちを調整しようとする。 	<p>5人の幼児は、自分たちで集まり話し合いを始めた。一人一人の思いが違いやりたい題材が二つに分かれ、一つに決められずに困っている。</p> <p>教師が、一人一人に題材を選んだ理由や思いを聞いていると、他の4人も自分からやりとりに参加し、互いの友達の思いを聞いている。</p> <p>D児がA児とB児の得意なことを生かせる人形劇に決めてよいかを本人に自分から尋ねる。A児とB児は少し戸惑いながらも了解する。表現の題材を自分たちで決めることができたが、教師は、A児とB児が本当に納得して決めているのかを確認する。</p>	<p>自分たちで集まり話し合う姿から、意識をもって参加しようとしていた。</p> <p>教師が、思いを出し合い、聞き合う場面をつくったことで、<u>幼児が互いの思いを知り、分かれていた意見をもう一度調整しようと考え合うことができた。</u>話し合いを通じて遊びのイメージが共有でき、<u>友達と一緒に活動を進めようとした。</u></p>
ステップ3(作る)	<ul style="list-style-type: none"> 友達がしていることを自分のしていることに取り入れる。 あきらめないで最後まで作る。 共有したイメージの実現に向けて、試したり工夫したりしながら作る。 作りたいものに合う材料を選ぶ。 	<p>5人の幼児は、教師が作った見本の恐竜よりも、大きい恐竜を作ることに決める。</p> <p>5人が2つに分かれて製作を進める。C児、D児、E児の3人は、材料籠から材料を選び、ビニール袋に新聞紙を詰めて恐竜を作り始める。</p> <p>A児、B児はその方法をまねて作る。</p> <p>3人組の幼児は、恐竜の頭、胴、尾がうまくつなげられずに困る。教師は自分たちでできるように考える時間をとる。自分たちで試行錯誤して恐竜ができあがる。できた恐竜を見て喜ぶ。口から火を噴く装飾、人形劇の舞台の装飾となる石等、新たな発想で作りたいものを言い、互いに考えを受け入れ合って再び作り始める。</p>	<p>作るもののイメージを明確にし、材料を提示しておいたことで、<u>自分たちで作るものの大きさや作り方を考えた。</u></p> <p>幼児が試行錯誤している姿を認める、ヒントを与える等をする事により、<u>自分たちでどのようにしたらよいかを考えた。</u>そこでまた<u>新たな発想が生まれ、人形劇に必要なものを作ることが楽しくなってきた。</u></p>
(遊ぶ) ステップ4	<ul style="list-style-type: none"> グループの中で誰が何の役をするか分擔する。 最後までみんなで劇をしようとする。 	<p>2人の幼児が欠席で、他の幼児は困っている。教師も一緒に相談にのる。幼児は、自分の役を3人で交代することに決める。</p> <p>幼児同士で目を見合わせ、グループの友達の反応を見ながら、セリフを言ったり声を合わせたりして最後まで人形劇を演じる。</p>	<p>考えたものが形となり完成した嬉しさや他の友達に見てもらうことを通して、<u>みんなでやろうとする気持ちが継続し、最後までやろうとした。</u></p>

検証保育の考察

ア 最初は、教師が提示した課題であったが、教師が各ステップにおける育てたい内容の連続性を踏まえ、課題の目的や幼児がすることを明確にしたことで、幼児はしだいに関心を深め、目的意識をもち行動していた。また、考えを出し合ってイメージしたものができあがっていくことの楽しさを味わい、主体的に製作に取り組むことができた。

イ 製作活動は、幼児の作りたいもののイメージが具体的に形となり完成される。幼児は、協同的な活動として友達と取り組む過程で、自分たちの作りたいものの実現に向けて、葛藤したり、試行錯誤したりしながらまた新たにイメージを思い付き、作り始めた。活動の

中で一人だけではなく、みんなで力を合わせて作り上げた満足感や、やり遂げた充実感を味わう等、いろいろな感情体験を共有することができた。

Ⅲ 研究の結果とまとめ

1 研究の結果

検証保育から、「製作活動を中心とした協同的な活動を進める過程」の各ステップにおける幼児に育てたい内容、指導の工夫が明確になった。(図4)

図4 「製作活動を中心とした協同的な活動を進める過程」における幼児に育てたい内容と指導の工夫

	育てたい内容 は観点	指導の工夫
ステップ1 共通の目的をもつ	理解する ・目的があることが分かる。 ・自分の一緒に遊ぶ仲間が分かる。 ・見通しをもって行動しようとする。	幼児に分かりやすい言葉で遊びの目的を明確に話し、期待感もてるようにする。 活動のイメージや見通しがもてるように視覚的に表示する。(絵、具体物、本等)
ステップ2 話し合う	話す 聞く ・自分の思いや考え、イメージを話す。 ・友達の思いや考え、イメージを聞く。 葛藤する ・自分と友達の思いや考えの違いに気付く。 情報を取り入れる ・友達と遊びのイメージを共有する。	幼児の気持ちや考えを確認したり受け止めたりして、一人一人が納得して活動を決められるようにする。 幼児同士が遊びのイメージを共有できるように、互いの幼児のイメージしているものを言葉や絵等で自由に表せるように言葉を掛け、幼児同士が交わす言葉をつないでいく。 幼児が友達の考えがよいと受け入れる姿や、自分の考えを伝えようとする態度を、教師が十分に認める。
ステップ3 作る	理解する ・作るものが分かる。 試す・工夫する ・試したり工夫したりしながら作る。 葛藤する ・自分の思いを調整しようとする。 情報を取り入れる ・友達が工夫していることを取り入れる。	自分たちが作りたいものには何が必要か、何を分担して作るのか、どのように作るのか等を明確にする。 材料が選べるように種類、色、大きさ等に配慮して用意し、ものを作る楽しさが味わえるようにする。 幼児同士が互いによさや工夫を取り入れ合うことができるように具体的な言葉で表したり、認めたりする。 幼児自身が試行錯誤し、自分たちで納得できる考えを発見できるように時間をとる。
ステップ4 遊ぶ	話す 聞く ・友達と言葉で思いを伝え合いながら、作ったものを使って遊ぶことを楽しむ。 仲間意識をもつ ・グループの友達と最後までやり遂げる。	作ったものを使って遊ぶことが楽しめるように、友達とかかわりながら遊ぶや場や機会等を設け、やってよかったという満足感が十分に味わえるようにする。 よかったところを幼児から引き出し、一人一人の幼児の自信となるよう十分に認める。

また、2年保育5歳児1年間の発達や学びの連続性を踏まえ、協同的な活動を通して幼児に育てたい内容と指導の工夫を観点ごとに明確にし、表にまとめた。(補助資料1と2)

2 まとめ

- (1) 教師が「製作活動を中心とした協同的な活動を進める過程」を踏まえた継続的な指導を行うことで、一人一人の幼児が関心や意欲を高め、主体的に活動に取り組み、満足感や達成感を味わうことができる。また、幼児同士が学びを共有し、学びの質を高めていく。
- (2) 「製作活動を中心とした協同的な活動を進める過程」を踏まえた指導の方法は、教師が提示した課題への取組みだけではなく、他の製作活動や、幼児が自発的に始める製作を伴う好きな遊びにおいても活用できる。
- (3) 5歳児の製作活動を中心とした協同的な活動において幼児が学んだことは、小学校教育の全ての教科等の指導につながっていくものであり、個々の幼児が学習へ向かう態度や、友達と考えを出し合いながら進める学習の基礎となる。

Ⅳ 今後の課題

今後は、「製作活動を中心とした協同的な活動を進める過程」を踏まえて、他の製作活動においても育てたい内容を明確にし、指導の工夫を図っていきたい。また、幼稚園、小学校の指導の内容や方法の特質を明確にし、互いのよさを共有していくための資料を作成していきたい。

【補助資料 1】

表1は、2年保育5歳児1年間の発達や学びの連続性を踏まえ、協同的な活動を通して幼児に育てたい内容を観点ごとに明確にし、表にまとめた。なお、協同的な活動として、教師が提示した課題へ向けての取組みのみをまとめた。

表1【協同的な活動を通して育てたい内容】

	5歳児1学期(4月～8月)	5歳児2学期(9月～12月)	5歳児3学期(1月～3月)
	ねらい 共通の目的に向けて友達と考えを出し合い、協力して一つのことをやり遂げていく満足感を味わう。		
	見通す 確かめる		
理解する	<ul style="list-style-type: none"> 活動の目的を知る。 活動の目的や内容が分かる。 自分の所属するグループが分かる。 一緒に活動を進める仲間が分かる。 予定を見聞きして自分なりに見通しをもって行動しようとする。 その時間に行うことが分かり、行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 一日や週の生活の流れに見通しをもって行動しようとする。 活動を進める順序や必要なことなどが分かって行動しようとする。 自分たちが遊びの中で考えた遊び方やルールを守り、十分に遊ぶ。 友達と楽しく活動を進めるために必要な決まりや約束を遵守しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに必要な新たな遊び方やルールを考え、十分に遊びを楽しむ。
話す	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを言葉で言おうとする。 思いや考えを友達に分かるように話そうとする。 友達の話を聞きながら、自分の考えを出す。 友達の考えを受け止めながら、自分の考えを出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いや考えを友達に分かるように話そうとする。 友達の話を聞きながら、自分の考えを出す。 友達の考えを受け止めながら、自分の考えを出す。 話し相手や状況に応じて工夫して話そうとする。 友達の話を聞きながら、自分の考えを出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し相手や状況に応じて自分の思いや考えを話そうとする。
聞く	<ul style="list-style-type: none"> 教師や友達の話を落ち着いて聞く。 分からないことを尋ねたり、聞き直したりする。 友達が伝えようとしていることをよく聞く。 友達が話しているときは最後まで聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し相手や状況に応じて工夫して話そうとする。 友達の話を聞きながら、自分の考えを出す。 話し相手や状況に応じて工夫して話そうとする。 友達の話を聞きながら、自分の考えを出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し相手や状況に応じて自分の思いや考えを話そうとする。
仲間意識をもつ	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に活動を進めるグループの友達を知り、進んで参加する。 グループの友達全員で一つのことを決めようとする。 友達と力を合わせると一人でできないことができる喜びを味わう。 自分の話を友達に受け入れてもらう嬉しさを味わう。 友達と話す学級全体の活動を楽しみ、つながりを感じる。 思いやる 手伝う 友達が困っているときは、手助けをしたり教えたりしようとする。 友達が困っているときは、手助けをしたり教えたりしようとする。 友達が困っているときは、手助けをしたり教えたりしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し相手や状況に応じて工夫して話そうとする。 友達の話を聞きながら、自分の考えを出す。 話し相手や状況に応じて工夫して話そうとする。 友達の話を聞きながら、自分の考えを出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し相手や状況に応じて自分の思いや考えを話そうとする。

協同的な活動を通して幼児に育てたい内容

	5歳児1学期(4月～8月) ねらい	5歳児2学期(9月～12月) 共通の目的に向けて友達と考えを出し合い、協力して一つのことをやり遂げていく満足感を味わう。	5歳児3学期(1月～3月)
<p>葛藤する</p>	<p>やりたいことを追求する (やりたいことを追求する については、繰り返し経験していく)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のやりたいことを追求する・友達の思いや考えの違いに気付く・友達の新たな面に気付く・友達と違う思いや考えがある自分に気付く。 <p>戸惑う もちもやする 我慢する 調整する</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びの中でつまみづかいがない、できないことで悔しい気持ちを感じる。 ・嫌なことや苦しいことがあってもあきらめないで最後まで取り組もうとする。 友達と思いを出し合いながら話し合いを進める中で、自分の思いや考えと友達の思いや考えの違いに気付く。 ・自分の思いや行動の調整をしようとする。 グループの中で時には我慢したり受け入れようとしたりする。 グループの友達と時間内に話し合いを行う時などに、決められなかったことやうまくいかなかったことを受容してもらう。 自分のしたいことと友達のしたいことに違いを感じながらも、目的に向かって最後まで一緒に活動を進めようとする。 <p>ぶつかり合う</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの思いや気持ち、考えを出し合う。 友達との思いのずれがあった時に、教師や他の友達に自分の思いを受容してもらう。 困ったこと、相談したいことなど、先生と一緒に考え合う。 	<p>戸惑う 確かめる 発見する 集中する</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近な素材、材料を活用しようとする。 製作する時のいろいろな表現方法を知る。(作り方、形や色、素材の組み合わせ方など) 用具の安全な使い方を知り、繰り返し使う中で扱い方に慣れる。 教師や友達のアイデアを刺激して自分たちの遊びを工夫しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ものの性質や特質に気付く。
<p>試す・工夫する</p>	<p>見通す</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字や絵などから課題の内容や見通し、手順などの情報を教師や友達に聞いたり教えてもらったりして自分から動く。 文字や絵などから課題の内容や見通し、手順などの情報を見て自分から動く。 <p>イメージをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 素材や材料、用具、作っているものなどからヒントを得て、自分なりにイメージしたものを作ろうとする。 友達と遊びのイメージを共有する。 友達が工夫していることを自分のことに生かす。 <p>発見する</p> <ul style="list-style-type: none"> テレビや本、歌、話等の情報を自分たちの遊びに生かす。 文字、数量に興味・関心をもち、自分たちの遊びに生かす。 分からないことや遊びに必要なことが出てきた時に、教師や友達と一緒に本、身近な物等で調べる。 <p>選ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びの内容、目的、作るものにした材料や素材を選ぶ。 ・新たな発想が出てきたときに、自分から必要な材料を考え、選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びのイメージが実現する素材や材料を選び、自分なりに工夫して使おうとする。 作りたいものを実現しようと繰り返し試行錯誤する。 作りたいものをより本物らしく作ろうとする。 遊び方を考えて、自分なりに試して遊ぶ。 	
<p>情報を取り入れる</p>			

協同的な活動を通して幼児に育てたい内容

【補助資料 2】

表2【主な指導の工夫】

	5歳児1学期(4月～8月)	5歳児2学期(9月～12月)	5歳児3学期(1月～3月)
理解する	<ul style="list-style-type: none"> 活動の目的を幼児に分かりやすい言葉で話す。 相談する内容やポイントが理解できるように分かりやすい言葉で、これから幼児が行うことを、順序を示して話す。 幼児が活動を理解しやすいように、共通体験したことや興味もちやすいような題材を取り上げる。 活動のイメージや見聞本ももてるように視覚的に表示する。 (絵、本、具体的な見本となるもの、材料、グループの構成メンバー等) 自分の思いや考えが出せるように、話し合う内容やポイントを分かりやすい言葉で順序よく伝える。 一人一人が安心して自分の思いや考えを出せるように温かい雰囲気を作り、幼児の話にじっくりと耳を傾ける。 相手に伝わるような話し方ができるように、必要に応じて言葉を添えたり、言い方を知らせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動の時間や見聞本がもてるように、視覚的に表示する。 (カレンダー、時計、その日の活動の内容、役割等) また、カレンダーの表示は、徐々に長期的(1、2週間)にしていく。 目的を表現するために、自分が何をすればよいかを理解できるように、話し合いの状況に応じて、自分たちのことや手順を明確に示し、分かりやすいことを確認しながら、話し合いの内容をグループ内で共通にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの視覚的な表示の他に、活動の見聞本をもつて自分たちで行動できるように「あとのくらしい」「ここまで」等の掲示の仕方を工夫する。
話す	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の幼児が自分の考えを言ったり、友達の話の話を聞いたり受け止めたりしているかを把握し、実態に合わせてかわる。 話し合いで決めることについて、幼児の気持ちを確認したり受け止めたりして、一人一人が納得して決められるようにする。 幼児が自分より友達の考えがよいと認める姿や、自分の考えをしっかりと伝えようとしたりしている態度を、教師が十分に認める。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の幼児が自分の考えを言ったり、友達の話の話を聞いたり受け止めたりしているかを把握し、実態に合わせてかわる。 話し合いで決めることについて、幼児の気持ちを確認したり受け止めたりして、一人一人が納得して決められるようにする。 幼児が自分より友達の考えがよいと認める姿や、自分の考えをしっかりと伝えようとしたりしている態度を、教師が十分に認める。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの意欲や意識が高まるように、話し合いを通して幼児が成長した姿を言葉に出して認める。 互いの思いや考えが伝わり合う喜びに教師も共感し、喜びを言葉に表し伝える。
聞く	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の話し方や言葉で、具体物を使いながら話し、興味ももてるように話し方を工夫する。 友達が話しているときは最後まで聞く姿勢を知らせ、教師も話をじっくりと聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の場、誰が話しているも落ち着いて話を聞いたり、全体にかかわる内容の話を自分のこととして受け止めて聞いたりできるように、一人一人の幼児と目を合わせ、反応を確かめながら話を進める。 互いの話していることを見合う、聞き合うなどができるような機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序立てて一人で話をすると、一人の話をみんなで聞くことができるように、あらたまった場や集合時に話したり聞いたりする活動を取り入れる。
仲間意識をもつ	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達を意識して行動したり、グループの友達の友達を手助けしたりできるように、グループで集合する、人数分の材料や用具を用意するなどの機会をつくる。 グループ作りでは、互いの考えを出しやすくする、友達関係に広がりをもたせるなど、実態に合わせてグループの人数を考えて編成する。 活動の中で必要な役割について、幼児の考えを引き出したり一緒に考えたりし、グループの中で共有させる。そしてみんなで分担してできたことを十分に認め、自信につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに友達の良いところに気付くことができるように、幼児が工夫している姿や頑張っている姿などを認める。また、周りの幼児や他のグループにも伝わるように、言葉に表し伝える。 友達が行っていることよよかったところを幼児の言葉で表現させる。 グループの中で役割を自分たちで考えて行動できるように、先行経験を思い起こさせたり、必要なことを問いかけたりして自分たちで決められるようにする。また、一人一人の幼児に役割が分担されていることを考慮し、どの役割も大切な役割であることを価値付けしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級やグループとしてのつながりやまとまりをより感じられるように、友達と互いに認め合ったり励まし合ったり教え合ったりする姿を認める。 幼児の得意なことやよさを学級全体にも知らせ、幼児一人一人がより自信をもてるようにする。
真似する	<ul style="list-style-type: none"> 互いに言いたいことがあっても我慢して聞けるように教師がかかわったり、友達の言いたいことが伝わるまで待ったり、言葉を補ったりする。 幼児が葛藤している気持ちを切り替えたり調節したりできるように、教師が幼児の気持ちを察して代弁したり、言葉にならぬ気持ちを十分に受け止めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを通そうとすることでなく、遊び(課題)の目的に気が付かせ、友達の思いや考えを受け入れられたり、最後までやり遂げようとする姿を認めたり励ましたりする。 友達との思いや考えにずれがある時は、互いの幼児の思いを十分に受け止め、我慢したり、あきらめないうり組んだりし、互いに十分に認める。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達のことを考えて、自分から思いや考えを調整しようとしている姿を、見守ったり励ましたり認めたりする。
工夫する	<ul style="list-style-type: none"> 製作する時に試したり工夫したりできるように、今まで使用したことがある材料や用具を整理し、新たに用具、材料などを用意する。 幼児が楽しんで製作できるように、目的や季節に応じた材料を提示する。 教師も幼児と一緒に遊び方、作り方などを考えたり試したり工夫したりする姿をモデルとして示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に合った材料や用具を自分で選択できるように整える。 作りたいものの実現に向けて、幼児自身が試行錯誤し、自分たちで納得できる考えを発見できるように時間をとる。 遊びがより楽しくなるように、本物らしく作る、しかけを作る等、幼児が少し頑張ることで満足感が味わえるヒントや課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の意欲がより高まるように、幼児が今まで経験したことを生かした製作の方法を提示し、自分たちで考え、試したり工夫したりできるようにする。
取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> 掲示物、表示等、教師が伝えたい情報を幼児が分かりやすく、遊びに取り入れられるように整える。 状況や目的に合った本を選ぶように用意したり、教師も幼児と一緒に調べたり探したりして、調べ方、探し方の姿をモデルとして示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の幼児の思いや考え、遊びのイメージをつなげたり確認したりし、一緒に遊びを進めている友達同士で共有できるようにする。 一つのイメージからさらにイメージが広がるように、遊びの中で再現したくなるような内容の絵本や童話を留意したり、情報を提示したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に合った材料や用具を選択できるように、用具の仕組みや特性があることを再確認したり、適した大きさ、長さがあることに気付かせたりする。

